

株式会社パテントリザルトの製品「Biz Cruncher」の最新機能と生成 AI 活用、および「2025 年 知財・情報フェア&カンファレンス」における出展内容に関する包括的分析レポート

Gemini Deep Research

エグゼクティブサマリー

本レポートは、株式会社パテントリザルト（以下、パテントリザルト）の主力製品である特許分析ツール「Biz Cruncher」の最新機能、特に生成 AI の戦略的活用、ならびに 2025 年 9 月 10 日から 12 日にかけて開催された「知財・情報フェア&カンファレンス」における同社の市場戦略について、詳細な分析を提供するものである。

分析の結果、Biz Cruncher は、独自の特許評価指標「パテントスコア」による定量的な「質」の分析能力を基盤としながら、近年、生成 AI を活用した定性的な特許読解支援機能を積極的に統合していることが明らかになった。具体的には、「図面の AI 解説」「発明のフローチャート化」「実施例の表整理」といった新機能は、特許情報の専門家でない研究開発者や経営層にとっても、複雑な技術内容の理解を劇的に効率化する実用的なツールとして設計されている。この「パテントスコアによる重要特許の特定」と「生成 AI による迅速な内容理解」の組み合わせは、特許分析のワークフロー全体をシームレスに支援する統合プラットフォームとしての Biz Cruncher の競争優位性を強固なものにしている。

「2025 年 知財・情報フェア&カンファレンス」において、パテントリザルトは、大規模なプレゼンテーションによる広範な認知獲得よりも、既存および見込み顧客との深いエンゲージメントを優先する戦略を選択したと分析される。フェア最終日に開催された「Biz Cruncher 交流会」は、その象徴的な施策である。これは、AI 技術の喧騒の中で、製品の実質的な価値を理解する層に直接アプローチし、コミュニティを形成することで、顧客ロイヤルティを高めるとい

う、成熟した市場リーダーとしての自信を示す戦略である。

結論として、パテントリザルトは、**Biz Cruncher** を単なる分析ツールから、AI によって強化された包括的な知的財産インテリジェンス・ワークフロー・プラットフォームへと進化させている。その実用性を重視した AI 機能と、的を絞った市場エンゲージメント戦略は、同社が日本の知財情報サービス市場における主導的地位を維持し、さらに強化していく上で極めて有効であると評価される。

第 1 部 Biz Cruncher - 特許インテリジェンスプラットフォームの戦略的分析

1.1. コアアーキテクチャと提供価値

パテントリザルトが提供する **Biz Cruncher** は、「速い・簡単・高度な、特許分析ツール」として市場に位置づけられており、特許の「量」と「質」の両側面から技術力を可視化することを中核的な提供価値としている¹。この二元的なアプローチは、製品の基本的な設計思想を貫く重要な柱である。

本プラットフォームは、企業の知的財産戦略に関わる多様なニーズに応えるべく設計されている。具体的な利用目的として、「競合状況の把握」「パートナー企業の探索」「新規事業の立案」「業界の将来予測」「開発戦略の策定」などが挙げられており、その適用範囲は法人企業、大学・研究機関、金融機関など多岐にわたる¹。

Biz Cruncher の市場における信頼性と影響力を示す最も重要な指標の一つが、その広範な導入実績である。パテントリザルトは、国内の主要メーカーの約 80% が本ツールを導入していると公表している¹。この主張は、第三者による客観的な証拠によって裏付けられている。コニカミノルタ、旭化成、三菱重工業（MHI）、ヤマハ発動機、ハウス食品グループ、デクセリアルズといった日本を代表する上場企業が、投資家向けに公開する統合報告書の中で、自社の知財戦略分析に **Biz Cruncher** を使用していることを明記している⁴。

この事実は、単なる導入実績以上の深い意味を持つ。企業が公式な IR 資料で外部ツールとその分析結果を引用する場合、そのデータの信頼性、客観性、および説明責任が厳しく問われる。これらの企業が **Biz Cruncher** の分析データを採用していることは、本プラットフォームが単な

るソフトウェアツールではなく、企業の知的財産ポートフォリオの価値を評価するための「業界標準（デファクトスタンダード）」に近い地位を確立していることを示唆している。例えば、旭化成は「Patent value (owner's score)」の算出に⁸、MHI は CCS/CCUS 分野における競合マッピングに Biz Cruncher を活用している⁹。このような高いレベルでの採用は、新たな顧客に対する強力な信頼性の証明となり、機能比較を超えた「実績と信頼に基づく選択」という強力な競争優位性を生み出す好循環を形成している。

1.2. 分析機能の詳細

Biz Cruncher は、知的財産に関する多角的な洞察を得るための包括的な分析機能を備えている。そのユーザーインターフェースは、知財分析の専門家でなくとも直感的に操作できるように設計されており、必要に応じて専門スタッフによるサポートも提供される¹。

可視化・統計分析機能

単純な件数集計に留まらず、高度なテキストマイニング技術を活用した多彩なグラフ描画機能が本プラットフォームの強みである¹。主要な分析機能は以下の通りである。

- **権利者スコアマップ:** 独自の「パテントスコア」を軸に、各企業の競争力や競合関係を二次元マップ上に可視化する。これにより、市場における自社のポジションや、注目すべき新興企業の動向を直感的に把握できる¹。
- **課題解決マトリクス:** 特許公報内のキーワードを基に、技術分野における「課題」と「解決手段」をマッピングする。競合他社が注力している技術領域や、未解決の課題（ホワイトスペース）を特定し、自社の研究開発戦略の方向性を定める上で極めて有用である¹。
- **キーワードマップ／類似特許マップ:** テキストマイニングや文書ベクトル技術により、特許群を自動的に分類・可視化する。技術トレンドの変遷分析や、特定の技術に類似する周辺特許の探索を効率化する¹。
- **ワールドマップ:** 世界各国の出願状況を地図上に表示し、技術開発が活発な地域や、戦略的に重要な市場を視覚的に特定する¹。
- **基本統計:** 出願件数やパテントスコア値など、様々な指標を用いて 10 種類以上のグラフ（棒グラフ、折れ線グラフ、マトリクス等）を柔軟に作成できる万能機能。「簡単作成」機能により、標準的な分析であればワンクリックで実行可能である¹。
- **ステータス分析:** 特許群の権利状態（生存、満了、拒絶など）を時系列で分析し、技術分野の盛衰や開発の活性度を評価する¹⁰。

検索・閲覧機能

分析の前段階となる情報収集・整理の効率を最大化するための機能も充実している。

- **多言語対応:** 主要国の特許公報は全文が機械翻訳されており、日本語による検索、閲覧、分析が可能。言語の壁を取り払い、グローバルな技術動向調査を円滑にする¹。

- **名寄せ機能:** 企業の統廃合や表記の揺れ（翻訳ミス、誤記等）をシステム側で自動的に補正・統合する。これにより、分析対象となる母集団の正確性が担保され、分析結果の信頼性が向上する¹⁰。
- **ファミリー情報／レイティング表示:** 各特許の国際的な出願展開（ファミリー情報）や、重要度を示す「レイティング（パテントスコア）」を一覧画面で即座に確認できる。これにより、膨大な特許リストの中から優先的に確認すべき重要特許を効率的に選び出すことが可能となる¹⁰。

以下の表は、Biz Cruncher の主要な分析機能とその戦略的活用法をまとめたものである。

表 1: Biz Cruncher 主要分析機能と戦略的活用法

機能	概要	戦略的活用法
権利者スコアマップ	企業の特許ポートフォリオを量と質（パテントスコア）でマッピングする。	主要競合の特定、知財ポートフォリオの強み・弱みの評価、注目すべき新興企業の発見。
課題解決マトリクス	技術的な「課題」と「解決手段」に関連するキーワードを分析・マッピングする。	競合の研究開発の注力分野の解明、未開拓な技術領域（ホワイトスペース）の特定、市場ニーズに合致した製品開発の方向付け。
キーワード／クラスタマップ	テキストマイニングにより、技術的な類似性に基づいて特許を自動的にグループ化する。	技術ドメインの構造の可視化、技術トレンドの時系列分析、先行技術調査の効率化。
ワールドマップ	特許の出願活動を地理的に表示する。	戦略的に重要な市場の特定、競合のグローバル戦略の分析、市場参入や提携先の地域選定。
基本統計	出願件数、スコアなどの各	経営層向けのカスタムレポ

	種指標を柔軟にグラフ化する。	ート作成、研究開発活動の時系列でのモニタリング、基礎的な競合ベンチマーキング。
--	----------------	---

1.3. 「パテントスコア」エンジン：品質への定量的アプローチ

Biz Cruncher の分析能力の中核を成し、他社製品との明確な差別化要因となっているのが、独自の特許評価指標「パテントスコア」である。これは、個々の特許に対する「注目度」を客観的なデータに基づいて偏差値化した指標であり、パテントリザルトの登録商標かつ特許技術でもある¹¹。

その算出ロジックは、特許明細書の内容を解釈する主観的なものではなく、特許出願から権利化、維持に至るまでの審査経過情報（プロセキューションデータ）という客観的な事実に基づいている。このスコアは、主に以下の3つのステークホルダーからのアクションをシグナルとして集計・評価することで算出される¹¹。

1. **出願人による権利化への意欲:** 早期審査請求や国際出願（PCT 出願）など、出願人が時間とコストをかけてでも早期に権利化・グローバル展開を図ろうとする強い意志を示すアクション。
2. **審査官からの認知度:** 後発の特許出願を審査する際に、当該特許が審査官によって引用される回数。これは、当該特許が技術的に重要であり、先行技術としての価値が高いことを示す客観的な証拠となる。
3. **第三者（競合他社）からの注目度:** 情報提供、異議申立、無効審判の請求など、競合他社が当該特許の権利化を阻止しようとしたり、権利範囲を狭めようとしたりするアクション。これは、当該特許が競合にとって脅威となっていることを直接的に示すものである。

パテントスコアは静的な指標ではなく、データの更新に伴い常に変動する（日本特許は毎週、その他は毎月更新）。さらに、過去の任意の時点でのスコアも遡って算出できるため、特定の特許や企業の技術ポートフォリオの注目度が時間と共にどう変化したかを追跡・分析することも可能である¹¹。

このパテントスコアがもたらす戦略的価値は大きい。現代の技術開発においては、情報過多が深刻な課題となっている。パテントスコアは、この膨大な特許情報の中から、真に重要で注目すべき特許を客観的な基準でフィルタリングし、優先順位を付けることを可能にする。これにより、ユーザーは競合他社のポートフォリオの中でも特に警戒すべき特許に分析リソースを集

中させたり、自社保有特許の維持・放棄判断をよりデータドリブンで行ったりすることができるようになる¹¹。これは、Biz Cruncher が掲げる「質」の分析という提供価値を具体的に実現するエンジンと言える。

第2部 生成 AI への転換 - 特許理解と分析の深化

2.1. 近年の AI 機能強化の概要

パテントリザルトは、2024 年後半に Biz Cruncher の AI 機能に関する一連のアップデートを矢継ぎ早に実施しており、この分野への大きな戦略的投資がうかがえる¹⁴。

- 2024 年 7 月 29 日: AI による Q&A 機能を追加。
- 2024 年 9 月 17 日: Q&A 機能を大幅に強化し、後述する 3 つの主要な新機能を追加。
- 2024 年 9 月 30 日: さらなる AI 機能の拡張を実施。

これらの機能強化の明確な目的は、「複雑な特許文章や分かりづらい図面も簡単に読み解ける」ようにし、それによって「発明ヒントの模索、開発戦略策定の効率化」を支援することにある¹⁵。これは、特許情報の活用における根源的な課題、すなわち「理解」のプロセスに AI を適用しようとする戦略的な動きである。

2.2. AI 機能の機能的分析

2024 年 9 月 17 日に発表された新機能は、Biz Cruncher の AI 戦略の方向性を具体的に示すものである。これらの機能は、抽象的な分析を行うのではなく、特許実務者が日常的に直面する、時間のかかる具体的なタスクを解決するために設計されている。

このアプローチは、極めて実用的かつユーザー中心であると言える。研究開発者や知財担当者の業務において、多くの時間は、まず特許文献を「読んで理解する」という基本的な作業に費やされる。この「理解」の段階こそが、分析全体のボトルネックとなっている。パテントリザルトは、生成 AI を、分析者そのものを代替するのではなく、この最も時間と労力を要するワークフローの一部を補強し、加速させるために適用した。これは、「次の革新的な技術を自動で

発見する」といった壮大な約束よりも、日々の業務における測定可能な時間短縮という、はるかに現実的で価値のある解決策を提供する。このような実用主義的なアプローチは、ユーザーからの高い支持と定着率に繋がる可能性が高い。それは、エンドユーザーが実際に抱える問題点を深く理解していることの証左でもある。

以下の表は、新たに追加された主要な生成 AI 機能の詳細をまとめたものである。

表 2: Biz Cruncher 生成 AI 機能の詳細

機能	メカニズム	主なユーザーベネフィット
図面の AI 解説	チャット形式のインターフェースを通じ、AI が特許図面内の符号や記号が持つ意味を詳細に解説する。	複雑な技術図面の読解にかかる時間と労力を劇的に削減する。特に専門外の技術者にとって理解のハードルを下げ、読解中心の調査を効率化する。
発明のフローチャート化	AI が特許本文を解析し、発明のプロセスや構造を簡潔で視覚的なフローチャートとして自動生成する。	発明の核心部分を俯瞰的かつ容易に把握できるサマリーを提供する。内容理解の速度を向上させ、他者への技術内容の説明を容易にする。
実施形態の表整理	画像認識とテキスト解析を組み合わせ、技術的な実施例から主要な特徴や数値を自動的に抽出し、構造化された表形式に整理する。	複数の実施例間の比較や性能データの分析を大幅に簡素化する。これは発明の範囲や有効性を理解する上で極めて重要である。

2.3. AI 統合の戦略的意義

パテントリザルトの AI 戦略の真価は、既存の強みであるパテントスコアとの相乗効果にある。この二つの要素を組み合わせることで、同社は単なる機能の集合体ではない、一貫した IP インテリジェンス・ワークフローを構築している。

このワークフローは、特許分析における二大ボトルネックを解消する。まず、膨大な特許情報の中から「何を優先して読むべきか？」という**優先順位付けの課題**がある。これに対しては、独自のパテントスコアが客観的な指標を提供し、解決策となってきた。次に、「その重要特許をいかに迅速かつ正確に理解するか？」という**内容理解の課題**が存在する。今回導入された生成 AI 機能群は、まさにこの第二の課題に直接的に応えるものである。

つまり、ユーザーはまずパテントスコアを用いて注目すべき重要特許群を絞り込み、次に生成 AI ツールを用いてそれらの複雑な内容を瞬時に、かつ深く理解することができる。この流れは、膨大なデータセットから始まり、迅速で実用的な洞察に至るまで、ユーザーをシームレスに導く。

このような統合されたワークフローの提供は、強力な戦略的差別化要因となる。それは、ユーザー体験を飛躍的に向上させ、分析業務全体の効率を根本から改善する。さらに、これまで専門的な知識や経験を必要とした特許読解のハードルを下げることによって、Biz Cruncher は知的財産の専門部署以外のユーザー、例えば研究開発部門の現場担当者や事業開発マネージャー、経営企画担当者など、より広い層に特許情報の戦略的活用を促す「民主化」の触媒となる可能性を秘めている。これは、Biz Cruncher を組織全体で活用される不可欠なインテリジェンス・プラットフォームへと昇華させる戦略的な一歩と評価できる。

第 3 部 「2025 年 知財・情報フェア&カンファレンス」における市場での存在感と戦略

3.1. 2025 年フェア：AI が支配するエコシステム

2025 年 9 月 10 日から 12 日にかけて東京ビッグサイトで開催された「知財・情報フェア&カンファレンス」は、過去最大となる 158 の企業・団体が出展し、その歴史の中で最も大規模な開催となった¹⁷。

そして、この大規模なイベントの全体を貫く最も顕著なテーマは、生成 AI であった。複数の参加者レポートやコメントからは、「今年は AI だらけだった」「AI ツールが本格的普及段階に

入ったと強く実感した」といった声が聞かれ、会場の雰囲気支配していたことがうかがえる¹⁷。AIを活用したサービスのデモンストレーションには多くの人だかりができ、活発な質疑応答が交わされるなど、業界全体の高い関心と期待が集中していた²⁰。いかなる出展者の戦略も、この「AI一色」という市場環境を前提として解釈する必要がある。

3.2. パテントリザルトの展示戦略と市場へのシグナリング（推論）

パテントリザルトが本フェアに出展していたことは、同社が自社ブースでの参加申込を案内したイベント告知によって確認されている²¹。

同社の戦略を読み解く上で最も重要な手がかりは、フェア最終日の9月12日に、会場内のレストランで開催した「Biz Cruncher 交流会」である²¹。このイベントは、Biz Cruncherの既存ユーザーおよび導入を検討している層を対象とした、クローズドな性格を持つものであった。

この施策は、「壮観さよりも実質を重視する（Substance over Spectacle）」戦略と分析できる。多くの企業がAIという流行のテーマで注目を集めようと、広範なオーディエンスに向けた派手なマーケティング活動に注力していたであろう中で、パテントリザルトが最も力を入れて告知した活動は、ターゲットを絞り込んだ質の高いネットワーキングイベントであった。

この選択の背景には、以下のような合理的な判断があったと考えられる。第一に、大規模な一般向けプレゼンテーションは、多数の競合がひしめく「AIの喧騒」の中に埋没してしまうリスクがある。第二に、招待制に近い形式で質の高い見込み客や既存顧客と直接対話する場を設けることは、自社製品への自信の表れであり、マーケティングの流行語を追うのではなく、実質的な議論を重視する姿勢を示すシグナルとなる。この交流会という場は、2024年のフェアでも提供されたような、新AI機能の実機に触れながらの詳細なデモンストレーションを行う絶好の機会となったはずである¹⁵。そして、その価値を即座に理解できる質の高い参加者に対して、集中的にアピールすることができた。

したがって、パテントリザルトの戦略は、最大の注目を集めることではなく、最も意味のある対話を行うことにあったと推察される。これは、自社のターゲット市場を正確に把握し、広範な認知度向上よりも、質の高いリードの転換と既存顧客との関係強化に投資することを優先する、成熟した企業の戦略である。一般的な参加者のブログ等で同社に関する言及が少ないことは¹⁷、この高度にターゲティングされた戦略の当然の帰結であり、展示の成否を測る指標とはならない。

3.3. 来場者エンゲージメントと市場の反応の分析

以上の戦略に基づき、パテントリザルトのブースは二つの主要な役割を果たしたと考えられる。第一に、新たに搭載された実用的な AI 機能群を体験できるデモンストレーションのハブとしての役割。これにより、来場者はその利便性を直接的に体感できた。第二に、価値の高い「Biz Cruncher 交流会」への参加登録を行うための戦略的拠点としての役割である。

AI ソリューションを積極的に探していた来場者が多数を占める会場の雰囲気の中で¹⁷、Biz Cruncher が提示したソリューションは、その実用性の高さから好意的に受け止められた可能性が高い。一部には「AI 疲れ」を感じる参加者もいたようだが¹⁷、同時に、明確で具体的な便益を示すツールが求められていたことも報告されている²⁰。「図面の解説」や「フローチャートの生成」といった、特定の問題を解決する Biz Cruncher の AI 機能は、より抽象的な AI プラットフォームとは一線を画し、日々の業務改善を求める実務者（技術者、知財アナリスト）の心に強く響いたであろう。

フェアで配布された資料（現物は確認できず）は、9 月 17 日のプレスリリースで詳述された新 AI 機能に焦点を当て、パテントスコアによる「優先順位付け」と AI による「内容理解」を組み合わせた統合ワークフローがもたらす効率化のメリットを強調する内容であったと推測される。

第 4 部 競争環境と将来展望

4.1. Biz Cruncher の競争上のポジショニング

Biz Cruncher の競争力は、他社が容易に模倣できない二つの強固な柱、すなわち「二重の堀（Dual Moat）」によって支えられている。

1. **独自開発され、市場で実証された品質指標:** 「パテントスコア」は、長年にわたる実績を持つ特許取得済みの独自手法であり¹¹、主要企業の公式報告書で採用されるなど⁴、事実上の業界標準としての地位を確立している。これは、防御可能な定量分析における優位性をもたらす。
2. **実用的で統合された AI ワークフロー:** 近年追加された、実用性を重視した生成 AI による読解支援ツールは、優先順位付けから内容理解までをシームレスに繋ぐワークフローを完成させた。これはユーザーの根源的な課題を解決し、プラットフォームの日々の実用性を

高めている。

この二つの要素の組み合わせにより、Biz Cruncher は、純粋な定量分析に特化したツールや、抽象的な「洞察生成」を謳う AI ツールなど、どちらか一方の領域に焦点を当てがちな競合製品との明確な差別化を図っている。実務者に対し、分析の始点から終点までをカバーする、完全なソリューションを提供しているのである。

4.2. 提言と戦略的展望

将来の製品開発の方向性

現在の AI 機能は、特許の「理解（Comprehension）」に主眼を置いている。製品開発の論理的な次段階は、生成 AI を「分析（Analysis）」および「統合・要約（Synthesis）」のフェーズに、より深く統合することであろう。将来的に考えられる機能としては、AI による特許クラスタの技術的特徴の自動要約、競合比較レポートのドラフト自動生成、あるいは課題解決マトリクスの分析結果に基づいた技術的ホワイトスペースの AI による提案などが挙げられる。

市場拡大の可能性

複雑な技術文書の理解のハードルを下げるという AI ツールの特性は、パテントリザルトがユーザーベースを従来の知財専門部署以外へと拡大する絶好の機会を提供する。今後は、従来の特許分析ツールが持つ急な学習曲線を必要とせず、アクセスしやすい技術インテリジェンスを求める研究開発部門、経営企画部門、M&A 担当チームなどを新たなターゲットとして積極的に開拓することが可能となる。

総括的評価

パテントリザルトは、生成 AI を巡る誇大広告の波に乗りながらも、既存の分析的強みを補完する実用的で価値の高い機能を実装することに成功した。「2025 年 知財・情報フェア」における、中核となるオーディエンスとの深いエンゲージメントを重視した戦略は、自信に満ちた成熟した市場リーダーの姿を反映している。同社は、AI によって強化された統合的 IP インテリジェンス・ワークフロー・プラットフォームを継続的に構築していくことで、国内市場におけるリーダーシップを維持し、その影響力をさらに拡大していくための強固な基盤を築いている。

引用文献

1. 特許分析ツール Biz Cruncher - パテント・リザルト, 9 月 21, 2025 にアクセス、
<https://www.patentresult.co.jp/service/bizcruncher/>
2. サービス一覧 | 特許分析のパテント・リザルト, 9 月 21, 2025 にアクセス、
<https://www.patentresult.co.jp/service/>
3. パテント・リザルト - 会社概要 - engineer, 9 月 21, 2025 にアクセス、
<https://www.atengineer.com/pr/patentresult/company>

4. Dexerials Integrated Report, 9 月 21, 2025 にアクセス、
https://www.dexerials.jp/asset/pdf/en/sustainability/download/Dexerials_Report_2023_E.pdf
5. Procurement Policy of House Foods Group, 9 月 21, 2025 にアクセス、
https://housefoods-group.com/en/ir/ir_library/e_guide/pdf/integrated_report2024_section_7.pdf
6. RETHINK WHAT'S POSSIBLE - Konica Minolta, 9 月 21, 2025 にアクセス、
https://www.konicaminolta.com/media/shared/changeable/investors/include/ir_library/ar/ar2022/pdf/konica_minolta_ar2022_e_221117.pdf
7. Yamaha Motor Co., Ltd. Integrated-report 2024(fiscal year ended December 31, 2023), 9 月 21, 2025 にアクセス、
https://global.yamaha-motor.com/ir/integrated-report/integrated2024/pdf/YMC_IR2024_Eng.pdf
8. Intellectual Property Strategy Briefing - Asahi Kasei Corporation, 9 月 21, 2025 にアクセス、
<https://www.asahi-kasei.com/ir/library/presentation/pdf/220707.pdf>
9. Intellectual Property - Mitsubishi Heavy Industries, 9 月 21, 2025 にアクセス、
<https://www.mhi.com/business/technology/ip>
10. Biz Cruncher の機能紹介 | 特許分析のビズクランチャー (Biz Cruncher), 9 月 21, 2025 にアクセス、
<https://www.bizcruncher.com/feature.html>
11. パテントスコア | 特許分析のпатент・リザルト, 9 月 21, 2025 にアクセス、
<https://www.patentresult.co.jp/service/patentscore/>
12. 特許分析のпатент・リザルト, 9 月 21, 2025 にアクセス、
<https://www.patentresult.co.jp/>
13. PatentSight vs Biz Cruncher | 特許のスコアリング手法比較 - note, 9 月 21, 2025 にアクセス、
<https://note.com/tshioya/n/n73d154698a88>
14. 特許分析のビズクランチャー (Biz Cruncher), 9 月 21, 2025 にアクセス、
<https://www.bizcruncher.com/>
15. - AI 分析 新機能 - 図面解説・発明をフローチャート化・実施形態を表で整理 | 株式会社патент・リザルト | プレスリリース配信代行サービス『ドリームニュース』, 9 月 21, 2025 にアクセス、
<https://www.dreamnews.jp/press/0000304834/>
16. 【NEW】 - AI 分析 新機能 - 図面解説・発明をフローチャート化・実施形態を表で整理, 9 月 21, 2025 にアクセス、
<https://www.patentresult.co.jp/news/2024/post-21397.html>
17. 第 34 回 2025 知財・情報フェア&コンファレンスの評価・評判, 9 月 21, 2025 にアクセス、
<https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/c615a21fdac7910e6430.pdf>
18. 2025 知財・情報フェア&コンファレンス 徹底調査レポート, 9 月 21, 2025 にアクセス、
<https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/f6dd341e3cff15206ac3.pdf>
19. 2025 知財・情報フェア&コンファレンス |, 9 月 21, 2025 にアクセス、
<https://pifc.jp/2025/>
20. 知財情報フェア 2025 で感じたこと | AI の熱狂と IP ランドスケープの静寂 -

- note, 9 月 21, 2025 にアクセス、 <https://note.com/tshioya/n/n693af7673e97>
21. 『Biz Cruncher 交流会』開催のお知らせ
～2025 知財・情報 ..., 9 月 21, 2025 にアクセス、
<https://www.patentresult.co.jp/news/2025/post-21530.html>
22. お知らせ | 特許分析の Patent・リザルト, 9 月 21, 2025 にアクセス、
<https://www.patentresult.co.jp/news/index.html>
23. 2025 知財・情報フェア 展示会レポート UP のお知らせ – ミガリオ ..., 9 月 21, 2025 にアクセス、 <https://www.migalio.com/news/events-2025-ip-fair-exhibition-report/>